

カービュー マーケットウォッチ (2012年6月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役社長：金子 昭一）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

乗用車全体で8カ月連続の大幅増と好調をキープ

12年 5月順位	12年 4月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	20,789
2	(2)	→	アクア	トヨタ	20,091
3	(3)	→	フィット	ホンダ	14,534
4	(4)	→	フリード	ホンダ	8,142
5	(5)	→	ヴィッツ	トヨタ	7,789
6	(6)	→	セレナ	日産	7,012
7	(12)	↑	ステップワゴン	ホンダ	5,745
8	(10)	↑	デミオ	マツダ	5,175
9	(7)	↓	ヴェルファイア	トヨタ	5,118
10	(13)	↑	ノート	日産	4,322
11	(9)	↓	アルファード	トヨタ	4,286
12	(8)	↓	スイフト	スズキ	4,010
13	(14)	↑	カローラ	トヨタ	4,008
14	(11)	↓	パッソ	トヨタ	3,791
15	(15)	→	ソリオ	スズキ	3,456
16	(18)	↑	ヴォクシー	トヨタ	3,405
17	(20)	↑	ウィッシュ	トヨタ	3,231
18	(19)	↑	CX-5	マツダ	2,890
19	(16)	↓	ラクティス	トヨタ	2,873
20	(22)	↑	ジューク	日産	2,688

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■乗用車全体で8カ月連続の大幅増と好調をキープ 震災前の10年比でも12.4%の2ケタアップ！

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した5月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車総数は33万7978台で、前年同月比は168.6%（貨物車、バスを含む総新車販売台数は39万4950台、前年同月比166.4%）と8カ月連続で大幅プラスとなった。東日本大震災前の10年5月の30万760台と比べても、12.4%増と上回っており、10年当時も08年に見舞われたリーマン・ショックからの復興策としてエコカー減税と新車購入補助金が導入されていただけに、回復傾向は堅調といえるだろう。不安材料は7月末ともいわれる現在のエコカー補助金終了による反動減だが、「トヨタ ポルテ」の派生モデルをはじめ、「日産 セレナハイブリッド」、「ノート」、「ホンダ N BOX」ベースの派生モデル、「三菱 ミラージュ」など、売れ筋カテゴリーに強力なニューモデルが控えているので要注目だ。

輸入車と軽乗用車を除く3/5ナンバーの国産乗用車（日産マーチ輸入分のみ含む）は19万2845台で、前年同月比は169.8%。ただ10年比では99.7%とわずかに下回っている状況。メーカーブランド合計ではスバル、三菱を除いて前年を上回り、10万396台/前年同月比128.3%増のトヨタを筆頭に、ダイハツ110.3%増、レクサス77.6%増、マツダ60.6%増、スズキ51.9%増、ホンダ49.1%増など、5割超もしくは5割に迫る上げ幅を確保した。月間ランキングでは12カ月連続トップの「トヨタ プリウス（α含む）」を含め、2位「トヨタ アクア」、3位「ホンダ フィット（シャトル含む）」、4位「ホンダ フリード（スパイク含む）」、5位「トヨタ ヴィッツ」、6位「日産 セレナ」まで前月から変動なし。トップ30圏内では5位の「ヴィッツ」、19位の「トヨタ ラクティス」、25位の「日産 キューブ」、30位の「日産 マーチ」以外は前年を上回る売れ行きだ。

軽乗用車は12万7160台で、前年同月比176.8%（貨物車を含めた全体では15万8584台/同166.6%）と8カ月連続のプラス。10年比でも36.0%増と絶好調だ。メーカー合計（乗用車のみ）では全メーカーが前年を上回り、車名別では「ホンダ N BOX」が1万9354台で、ホンダの軽として初の2カ月連続トップとなった。

輸入乗用車は海外メーカー製のみでは1万7420台、前年同月比は120.4%で2カ月ぶりにプラスに転じた（日本メーカー製を含む輸入乗用車全体では1万9871台、同109.0%）。海外メーカーブランド別乗用車ランキングはVW（フォルクスワーゲン）が4359台/前年同月比113.0%でトップに振り返り、前月トップだったBMW（ミニを除く）が2954台/同128.9%で2位、3位はメルセデス・ベンツで2532台/同120.8%だった。また4位アウディ1778台/同110.1%、5位BMW ミニ1348台/同147.2%、6位ボルボ1022台/同118.3%まで1000台超と好調で、トップ10圏内の前年同月比は8位フィアット以外前年超となり、伸び率ではアルファロメオが160.4%増と好調が続いている。

■ココも気になる！ その1

新車販売に占める軽比率が2カ月連続で40%超に

各メーカーの生産レベルが回復し、エコカー補助金の追い風もあって、1～5月累計で244万2018台、前年同期比58.8%増なのはもちろん、震災前の10年同期比でも10.6%増と2ケタの伸びとなっている。なかでも軽自動車は好調で、4月、5月は新車販売に占める軽比率が41.9%、40.2%と2カ月連続で4割超に達し、1～5月累計は90万2236台、10年同期比では15.5%増と、3/5ナンバー乗用車の6.3%増を大きく上回る売れ行きだ。

軽自動車のなかでも乗用車部門の伸びが高く、前年同期比56.5%増、10年同期比19.6%増。車名別乗用車月間ランキングでも、2カ月連続で「ホンダN BOX」が3位に入るなど、軽乗用車がトップ10に4位「ダイハツ ミラ（イース、ココア含む）」、6位「ダイハツ タント」、7位「スズキ ワゴンR」、8位「ダイハツ ムーヴ（コンテ含む）」、9位「スズキ アルト（ラパン、エコ含む）」の6台がランクインする伸張ぶりだ。

軽自動車は07年に初めて年間200万台超となる202万3520台を記録したが、その後は頭打ち状態となり、10年に公的支援策のおかげで前年を上回ったものの、172万台にとどまっていた。しかし「ダイハツ タント」、「スズキ パレット」などのハイトワゴン勢が人気となり、さらに昨年からはリッター30km超を謳う「ダイハツ ミライース」をはじめする低燃費モデルが人気を牽引。昨年12月に発売された「N BOX」はハイトワゴン人気をさらに盛り上げるヒット作となり、最近ではミニバンユーザーからの乗り換えも多くなっているという。

税制面のメリットや燃費志向に加え、居住スペースの拡大や質感のアップなども認知され、ダウンサイジングの受け皿としても注目を集めている。エコカー補助金終了後の反動減を抑えるために、夏の販促キャンペーンを延長する動きもあり、年初の年間販売目標178万台はクリアできそうな勢いだ。

■ココも気になる！ その2

年間1万4000台を狙うボルボに注目

海外メーカー製輸入乗用車は、昨年4年ぶりに20万台超となり、前年比13.1%増だった勢いそのままに、今年も1～5月累計で9万2104台、前年同期比27.6%増と好調だ。そんななか、昨年1年で1万1787台、前年比51.8%増と過去5年で最高の販売台数を記録したボルボが売れ行きをキープ。5月単月で今年2度目の1000万台超となる1022台を売上げ、1～5月累計では4954台、前年同期比35.9%増と快調なのだ。

特に昨年3月発売のスポーツセダン「S60」、6月発売のスポーツワゴン「V60」が人気で、09年にデビューし、昨年改良を受けたクロスオーバーSUV、「XC60」を加えた60シリーズ全体では6032台、全ボルボ販売台数の52%を占める主力シリーズに成長した。これで60シリーズは昨年の年間輸入車ランキングで8位となり、今年の1～3月累計でも1877台で8位につけている。

ボルボは世界市場でも好調で、昨年は 44 万 9255 台、前年比 20.3%増を達成。地域別では中国が 54.4%増、アメリカでも 24.7%増と好調な売れ行きだった。

インポーターのボルボ・カーズ・ジャパンでは、20 年に日本国内で 2 万台の販売目標を掲げていたが、60 シリーズ人気に乗って、16 年頃に前倒ししたいとしている。そのためには今年の年間販売目標である 1 万 4000 台達成が第一歩になるはず。そこで、2 月に「XC90」の内外装をマイナーチェンジし、「V50」や「V60」に R-DESIGN モデルなどの特別仕様車を続々と投入するなど、攻勢に出ている。特に R-DESIGN モデルは従来から安全性には定評のあるボルボにアグレッシブなデザインがプラスされているだけに、輸入車ファンには見逃せない一台といえるだろう。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 総務部 広報チーム (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
